

[認知症対応型共同生活介護用]

## 1. 外部評価結果報告概要表

### 【評価実施概要】

事業所番号	2970200230
法人名	社会福祉法人 甘樫会
事業所名	あまがし苑 高田
所在地	大和高田市神楽3丁目11番13号 (電話) 0745-21-1666
評価機関名	特定非営利活動法人 なら高齢者・障害者権利擁護ネットワーク
所在地	奈良市内侍原町8番地 ソメカワビル202号
訪問調査日	平成21年3月3日

### 【情報提供票より】(21年 1 月 26 日事業所記入)

#### (1) 組織概要

開設年月日	平成 14 年 3 月 1 日
ユニット数	3 ユニット
職員数	34 人
利用定員数計	18 人
常勤	11 人
非常勤	17 人
常勤換算	5.3 人

#### (2) 建物概要

建物構造	鉄骨 造り
	2 階建ての 階 ~ 2 階部分

#### (3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	46,000 円	その他の経費(月額)	29,000 円	
敷 金	有 ( 円 )		〇無	
保証金の有無 (入居一時金含む)	〇有 ( 100,000 円 ) 無	有りの場合 償却の有無	〇有 / 無	
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	または1日当たり 1,000 円			

#### (4) 利用者の概要 (1月 26日現在)

利用者人数	18 名	男性	1 名	女性	17 名
要介護1	4 名	要介護2	7 名		
要介護3	4 名	要介護4	2 名		
要介護5	0 名	要支援2	1 名		
年齢	平均 92.1 歳	最低	71 歳	最高	98 歳

#### (5) 協力医療機関

協力医療機関名	高田市立病院。吉川診療所。東朋香芝病院。
---------	----------------------

### 【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

当事業所は、主要駅から徒歩12～15分、幹線道路沿いに面しており交通の便は良く、周辺には郵便局、スーパーマーケットがあり、駅近くには商店街などもあって、利用者の買い物の楽しみを満たすに十分な環境にある。法人の理念「安心快護」に加え、事業所独自の理念もあり、利用者本位のゆったりとした介護が行なわれている。ユニット間の連携も良く、職員はどの利用者に対しても馴染みの関係ができており、ユニットごとに柔軟な対応が取れるのが特色である。

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	「地域密着型サービスとしての理念」、「外部評価の意義の理解と活用」、「運営推進会議を活かした取組み」については改善への取り組みの足がかりはされているが、改善されたところまでは言い難く、今後の取り組みに期待したい。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	評価のねらいや活用方法について、職員の理解を高める取り組みが望まれる。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	運営推進会議に家族の参加を働きかけ、定期的開催されることが望まれる。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	家族来訪時には職員は意見を述べやすい雰囲気作りをこころがけ、管理者に報告し、問題によっては全体会議で話し合いがされている。重要事項説明書に内外の相談窓口が明記されている。
重点項目⑤	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	自治会行事に積極的に参加し、認知症ケアや専門性を生かした地域住民向けの勉強会を続けて開催するなど、地域に理解されるように事業所側からの働きかけを続けて行なわれる事を期待する。

## 2. 外部評価結果報告書

(   部分は重点項目です )

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	基本 理念の他に事業所独自の運営理念も作られている。	○	地域密着型サービスとしての理念が作成されているので、基本理念と同じように重要事項説明書に分かりやすい言葉で記載されることが望まれる。
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	朝礼時や会議で確認しあい、月毎に項目を決めて話し合いが行われ、新任職員には朝礼で話すと同時に主任がついて理念に沿ったケアの実践を指導している。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	子ども会の廃品回収に参加したり、自治会や宮講に「あまがしだより」を配布している。市主催の祭りや花見、小中学校の行事にも参加している。認知症ケアの相談にのることもある。	○	地域性や施設についての偏見など難しい面もあるようだが、もう少し積極的に自治会行事に参加され、勉強会を開催するなどの事業所からの働きかけを期待したい。「あまがしだより」の配布には利用者のプライバシーに考慮されることが望まれる。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価票を職員に配布し各グループ主任が作成している。前回評価結果については管理者から報告を受けている。	○	自己評価票の作成や、外部評価の結果についての具体的な改善点など、一連の過程を全職員で取り組まれることが望まれる。
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	平成20年12月に1度開催され、自治会総代、地域包括支援センター、管理者、職員が出席し、施設状況説明を行なった。	○	家族参加を働きかけ、定期的な開催を企画されているので今後の取り組みを期待したい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	地域包括支援センターや市役所を訪問し、担当者と入所情報や申し込み依頼についてなど話し合われている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	利用者の変化を「気付きノート」に記入し、家族来訪時には日頃の様子や変化を報告している。月に1度「あまがしだより」を送付し、個々人の受診結果や金銭管理についても報告されている。健康面での変化や面会の少ない家族には電話でも連絡をしている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族からの苦情・相談に対しては管理者に報告し、時には全体会議で話し合っているが、件数は少ない。重要事項説明書に内外の相談窓口を明記している。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	新人職員には、主任が付きっきりで指導し、利用者とのコミュニケーションをはかっている。現在のところ職員は定着しており、利用者は落ち着いた雰囲気のもとで生活している。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修計画に沿って月1度研修が実施されている。働きながらの学習(OJT)や外部研修、資格試験の斡旋、情報提供など積極的に取り組んでいる。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	全国グループホーム協会奈良県支部に加入し、全国大会には職員も参加している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	家庭訪問を行い事前の情報を得ると共に、希望者には併設のデイサービスを利用して馴染まれるよう進めている。短期入所による体験も可能である。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	気付きノートを作成し、本人の出来ることを見極める努力をしている。利用者の昔話を聞き、その当時の日本の様子を教えてもらったり、編み物や洋裁など得意なことを教えてもらえる時間作りに取り組んでいる。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	希望や意向について聴取項目に沿って本人や家族から聴取している。センター方式の研修を受け、思いを把握することに努めている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	担当職員が素案を作り、介護支援専門員が確認し、作成している。職員全員が取り組まれたプランになっている。		できればプラン作成時に家族の参加が望まれる。
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	3～6ヶ月で見直しを行っている。見直し時には担当職員や本人、家族から聞いている希望や意向をもとに話し合い、検討している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b>					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	通所介護利用者に作品展を見に来てもらったり、通所介護のボランティアによる芝居を見に行ったり、一緒に行事を行うなど、併設の通所介護、居宅介護支援事業所との交流を図っている。かかりつけ医の受診支援も行っている。		
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	週に2回往診があり、緊急時の対応や気軽に相談できるなどの体制が整っている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	契約書に「看取りの指針」が明記されており、本人、家族の同意のもとに検討することを謳っている。過去に1人看取っている。		看取りの指針があり、協力医もおられるので、早急にターミナルケアについての職員研修をされることが望まれる。
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
<b>1. その人らしい暮らしの支援</b>					
<b>(1)一人ひとりの尊重</b>					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	OJT方式の中にプライバシー保護の取り組みについての研修がある。言葉使いについては特に注意している。		個人ファイルなどの書類は、必要時以外は事務所などに保管されることが望まれる。
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	理念に沿って、自己決定ができるようにその人のペースに合わせた介護を心がけている。会話の中で本人の意向を汲み取るように努めている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</b>					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	併設の通所介護と共同購入することにより食材費を低くおさえている。おおまかな調理は出来ていて、盛り付けや配膳などを利用者と共にゆったりと行なっている。利用者の健康状態に合わせた食事内容が考えられており、一日のカロリー、栄養計算が把握されている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴日は概ね週3回、夏期は隔日である。昼間入浴希望者は、通所介護の広い浴室を利用し、夜間入浴希望者は個室浴室を利用している。		1階へのエレベーターが屋外にあるため、1階の広い浴室を利用する際には、特に冬季風除けなどの工夫が望まれる。
<b>(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援</b>					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	掃除、洗濯物の片付け、料理の盛り付け、食器洗い、花の水やりなど出来ることを職員と一緒に行なっている。意欲的にされる方もある。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	週に1回は買い物に出かけ、近くのお寺に散歩に出たり、大衆演劇を見に行ったり、ドライブに出かけるなど、天気や季節を考慮して支援している。		
<b>(4) 安心と安全を支える支援</b>					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中は職員の安全確認ができるので施錠していない。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	防災マニュアル、緊急時、夜間時対応マニュアル、外出時、事故発生時対応マニュアルなどが作成されている。避難、消火訓練なども行なわれている。		出来れば近隣住民の協力が得られるような取り組みを希望したい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	介護状況記録に食事量、水分摂取量が記録されている。一日のカロリー、栄養バランスなどが把握されている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	食堂兼リビングには使い勝手の良いテーブルや両肘掛の付いた大きめ椅子、ソファが置かれている。廊下、トイレは広く、長い直線の廊下は、歩行訓練に利用されている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	全ての居室に洗面台と物入れが設置されており、畳みの部屋も6室ある。低床のベッドには転倒防止の柵が取り付けられている。それぞれの居室には、利用者の作品や写真が飾られていて、その人らしい雰囲気が感じ取れる。		